

「あだしののつゆきゆるときなく」 ぼうせんちゅうしやくふりんと

次の（ ）内の挿入注釈を参考に、ノートに書写した本文に傍線注釈をしなさい。（仮名書きを常用漢字に直すこと。（ ）内は傍線注釈では挿入として記すことになる。

（ ）には自分で考えた挿入句を入れること。

ゴシックの語を文法的に説明しなさい。

担当に当たつた人は、授業開始前に黒板に傍線注釈を書き、下段にある間に答えられるように準備しておくこと。

①あだし野の露（はきえやすいが、そのように）消ゆるときなく、鳥部山（にたつかそう）の煙（はきえさつてしまふが、そのように）立ち去らでのみ、（このよのかぎりまで）住み果つるならひならば、いかにもののはれもなからん。

②（この）世は定めなきこそ、いみじけれ。

③命あるものを見るに、人ばかり（いのちが）久しきはなし。

④かげろふの（あさにうまれて）タベを待ち（＝たずにしに）、夏の蟬の春秋を知らぬ（＝ないでしんでしまうというようなたんめいなきもののれい）もあるぞかし。

⑤つくづくと一年を暮らすほどだにも、こよなうのぞけしや。

⑥（なんねんいきても）飽かず、（いのちを）惜しと思はば、千年を過ぐすとも、一夜の夢の心地こそせめ。

⑦住み果てぬ世に（ ）みにくき姿を待ちえて何かはせん。

⑧命長ければ辱多し。

⑨長くとも四十に足らぬほどにて死なんこそ、めやすかるべけれ。

⑩そのほど過ぎぬれば、かたちを恥づる心もなく、人に出でまじらはんことを思ひ、

⑪夕べの陽（のようよめいいくばくもないみ）に子孫を愛して、さかゆく末を見んまでの命をあらまし、

⑫ひたすら世（のめいよやりえき）をむさぼる心のみ深く、もののあはれも知らずなりゆくなん、あさましき。

●作者は⑤・⑥の文のどちらのとらえ方がいいといつてているのか？

②作者が主張しているこの世のすばらしさとは何か？

③人でない生き物はどれほど命が短いと言つてゐるか。

④「ぞかし」を文法的に説明しなさい。

⑦（ ）……作者はどうなると「みにくき姿」になると言つてゐるのか？

⑩「そのほど」とはどうのほどか？

⑪「あらまし」を文法的に説明しなさい。

●あなたはこの作者の意見に対してもう思うか、記しなさい。

● 作者が理想とする生き方はどのようなものか。簡単にまとめなさい。

					頁行
					副助詞
					訛

●語をピックアップし
語をまとめなさい

				頁行
				係助詞
				結びの語
				文法的説明

●係り結びを指摘し、結びの語を文法的に説明しなさい。